

酪農学園のめざす姿

学校法人 酪農学園

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
TEL : 011-386-1111(代表)

アクションプラン 2017

—2020 経営計画の取組項目—

目次

2020 経営計画とアクションプラン2017の
一体的取組について 1

I 酪農学園のミッション 2

II 酪農学園のビジョン 2

III ビジョンを具現化するための施策 3

IV アクションプラン 4

1 2020 経営計画 4

1 学園の経営目標と取組項目 5
2 大学の教学目標と取組項目 6
3 高校の教学目標と取組項目 7

2 アクションプラン2017 8

1 教育 8
2 研究 10
3 社会連携 12
4 国際化 12
5 キャンパス環境 14
6 財務 14
7 組織運営 16

2020 経営計画とアクションプラン2017の 一体的取組について

これまで大きな社会環境の変化として、少子高齢化の急速な進行と人口減少が挙げられています。また、人工知能の活用をはじめとした技術革新が進展し、社会の枠組み自体が大きく変化しようとしています。教育の分野では18歳人口が2020年予測では117万人と減少トレンドに推移し、さらに2025年には、106万人と大幅に減少することが挙げられます。これに対応するため、国が進めている教育改革は、文部科学省主導による「大学改革実行プラン」(2012年5月)、「高大接続改革実行プラン」(2015年1月)から高大接続システム改革会議「最終報告」(2016年3月)として示され、具体的なスケジュールのもとで実行されています。また、これと連動し、私立大学等経常費補助金をはじめとした助成制度の活用により、全国の国公立大学の改革を促しています。

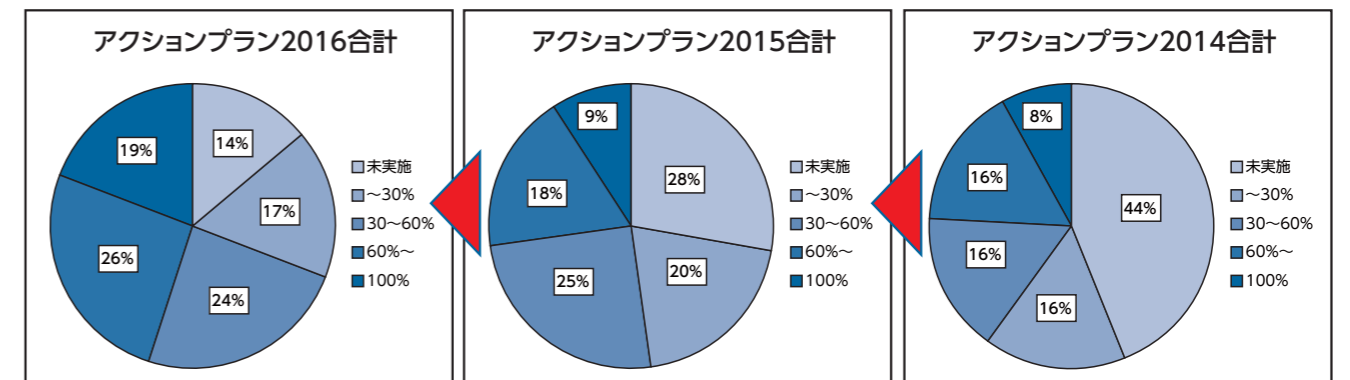
酪農学園は、これら一連の改革に対応すべく「酪農学園のめざす姿」の具現化に向け2013年度に「アクションプラン」を策定し、2014年度198項目、2015年度184項目、2016年度176項目について取り組んできました。さらに、急激に進められている教育改革に対応するため、2015年5月に理事会で決定した「2020年に向けた経営改革 ～生き残る酪農学園に向けて～」の経営・教学目標に向けた取組内容を具体化し、早期に取り組む事項としてアクションプランと一体的に取り組むこととしました。これまで進めてきた「アクションプラン」の中でも重点的課題を設定し、環境変化への対応をより推進するものです。

このことを踏まえ、2016年度は各部署との協議により、2014年度から取り組んできた「アクションプラン」の3か年の進捗状況を確認するとともに、日常業務への落とし込みを中心に項目整理・統合を行い、126項目に集約し、「アクションプラン2017」として取りまとめました。

「2020経営計画」は、経営目標・大学の教学目標・高校の教学目標の設定、それを具現化するための課題と取組内容、各部署との協議を経て設定した具体的取組項目で構成しています。また、「アクションプラン2017」は、設定した目標を含め、急速に量的・質的に変化する教学環境に対応しながら、絶えず見直しを重ねて学園経営を推進するものです。先行して進めている高校改革については、教学目標の点検を行い、2017年1月理事会で承認され、具体的な改革計画を進めているところです。

2017年度以降は、「2020経営計画」を包含した「アクションプラン」に基づき、PDCAサイクルにより推進します。

【アクションプランの進捗状況】



アクションプランは、2013年度に策定され、毎年、各部署との協議と進捗確認を行ってきました。2014年度当初は、完了（進捗率100%）は8%に留まり、未実施が44%を占めていました。3か年経過して進捗率が高くなってきており、2016年度には19%の取組項目は完了となりました。

I 酪農学園のミッション

「三愛精神」・「健土健民」

—建学の精神の本質—

酪農学園は、1933年に北海道酪農義塾として開設し、キリスト教の精神を基にした神を愛し、人を愛し、土を愛する三愛精神と実学教育により人格の完成を目指し、健土健民思想を体得した自営農業者をはじめ多くの有能な人材を送り出し、社会の発展に大きく貢献してきました。

21世紀の世界は、人口の増加、気候変動など環境変化、資源の枯渇、土壌の流亡、生物多様性の喪失などの問題が深刻化し、食料の持続的で安定した確保が大きな課題となっています。

本学園は、この時代の転換期に教育改革を積極的に進め、農業を基盤とした人間教育を中心とする建学の精神の更なる具現化を使命とします。

そのために、実学教育を基本とする「農・食・環境・生命」の教育を通じて明日を切り拓く「力」を育て、地域と世界の継続的な発展に貢献する人材を送り出します。

II 酪農学園のビジョン

明日を切り拓く「力」を育てる教育研究の実現

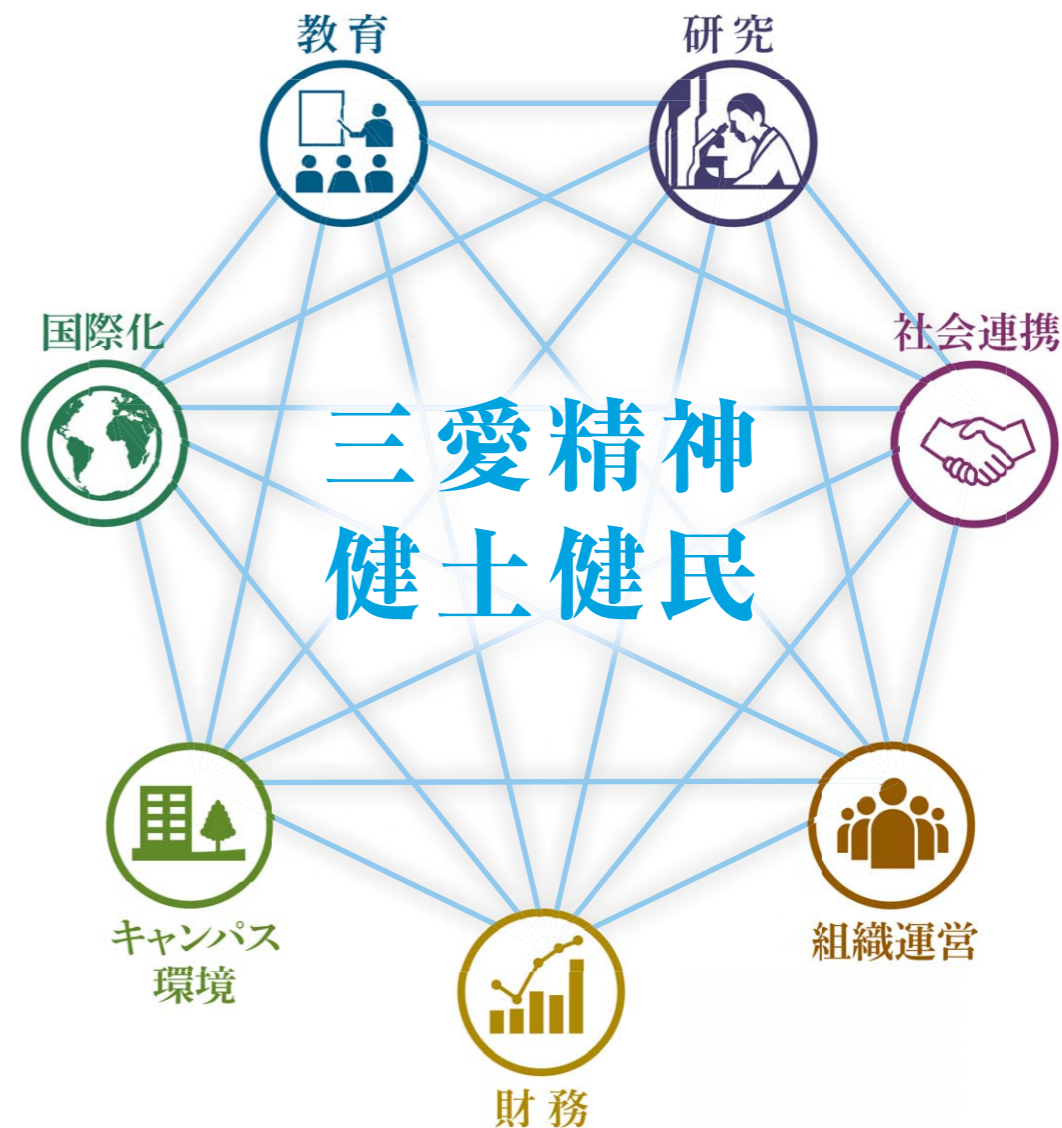
—自ら探究し実践する人材を育成するフィールド—

建学の精神に基づき、学園に集う皆が地域の発展と世界の平和に貢献する有為な人材となるよう努めます。

地域から世界まで広いフィールドで活躍できる「力」を育てる教育研究を実践します。

- 1 地域と世界を繋ぐ人材育成の拠点とします。
- 2 多様なフィールドに役立つ強い「知」の創造拠点とします。
- 3 異文化が交わる共生社会のネットワーク拠点とします。
- 4 個性が輝くライフワーク拠点とします。
- 5 継続的発展のために、たゆまぬ改革に取り組みます。

III ビジョンを具現化するための施策



教育

地域と世界を繋ぐ人材教育
世界のフィールドへ羽ばたき、地域の中核となる人材育成

研究

地域と世界のフィールドに貢献できる研究推進
優れた研究成果を教育に反映

社会連携

地域のリーダーとなる人材の輩出
健康で豊かな暮らしの実現

国際化

フィールドは地球と捉え、
教育・研究・社会連携を地球規模で推進
「知」を中心としたネットワークの創造

キャンパス環境

広大な野幌原始林と農地・緑地が
織り成す景観を大切に
快適に過ごしながら交流する「街」創り

財務

安定した財務基盤を維持
将来投資を循環して行う財務構造の構築

組織運営

教育研究を機動的に推進できる組織
すべての教職員が熱意を持って働ける環境整備

IV アクションプラン

1 2020 経営計画

酪農学園のミッション

「三愛精神」「健土健民」

酪農学園のビジョン

明日を切り拓く「力」を育てる教育研究の実現
—自ら探求し実践する人材を育成するフィールド—

目指す姿

実学教育を基本とする「農・食・環境・生命」教育の
リーディング・ユニバーシティ酪農学園

選択と集中による経営計画の推進

外部環境の変化に対応するため、アクションプランのうち早期
に取り組むものを経営計画として策定

組織目標 学園全体のガバナンス体制整備の推進

財務目標 継続的投資可能な財務構造への転換

(1)アクションプランから経営・教
学目標に向けて早期に取り組む
ものを2020経営計画として策定

(2)アクションプランと2020経営
計画については、一体として取
り組み、推進していく

(1) 学園の経営目標

学園の維持・発展

方針 学生の学びを支える経営基盤の整備

| | | | |
|---------|-------|----------------|-------------|
| ・人件費比率 | 46%以下 | ・教育研究費比率 | 35%以下 |
| ・管理経費比率 | 10%以下 | ・基本金組入前当年度収支差額 | 7億円以上(9%以上) |

(2) 大学の教学目標

質の高い・特色ある教育課程の実践

| | | | | |
|-----------|---------------------|---------|--------------|----------|
| 方針 | ・入学者の確保 | 定員の1.2倍 | ・安定した受験者数の確保 | 4,000名以上 |
| | ・明確なポリシーに基づく教育体制の確立 | | ・大学満足度の向上 | |

(3) 高校の教学目標

高大一貫を軸に、生きる力と社会に貢献する力を育て、進化を続ける学校へ

| | | | | |
|-----------|------------------------------------|--------------------|-------|--------|
| 方針 | ・志願者数 | 1,300名以上(江別市内500名) | ・入学者数 | 300名以上 |
| | ・学内大学進学者数 | 70名以上 | | |
| | ・進路実現に向けての確実な学習・活動の取り組みによる高い満足度の実現 | | | |

1 2020年の経営目標と取組項目

学園の維持・発展

方針 学生の学びを支える経営基盤の整備

| | | | |
|---------|-------|----------------|-------------|
| ・人件費比率 | 46%以下 | ・教育研究費比率 | 35%以下 |
| ・管理経費比率 | 10%以下 | ・基本金組入前当年度収支差額 | 7億円以上(9%以上) |

| 経営課題/取組内容 | 具体的取組 | 担当部署 |
|---------------------------------|--|--------|
| i バランスの取れた財政基盤の確立 | | |
| 1 予算・決算制度改革の着手 | (1) 計画的な予算査定と執行を目指し、事業計画書を導入 | 財務課 |
| | (2) 個人研究費配分額の見直し | 財務課 |
| | (3) 実学充実費予算配分率の変更 | 財務課 |
| | (4) 前年踏襲配分方式から、収入に応じた経常費と特別費の組立ての新予算制度の検討 | 財務課 |
| 2 学納金の検証と施設充実費の導入 | (1) 学費改定の検討(施設設備費の導入と実学充実費の廃止) | 財務課 |
| 3 教育改革と連動した補助金の獲得 | (1) 経常費補助金(特別補助・私立大学等改革総合支援事業等を含む)を獲得するための戦略策定 | 研究支援課 |
| | (2) 私立大学等改革総合支援事業のプロジェクト答申を基に具体的なプランニングの策定 | 研究支援課 |
| 4 特待生制度(高校)の改正 | (1) 特待生制度の改正 | 高校執行部 |
| 5 寄附金募集事業の着手 | (1) 公益財団法人である酪農学園後援会により寄附募集事業を推進 | 財務課 |
| ii ガバナンス体制の確立に向けた組織機能の整備 | | |
| 1 教員人事給与制度改革 | (1) 外部機関との連携による教員人事給与制度の調査・検討の推進 | 総務課 |
| 2 教員評価制度の導入 | (1) 教員評価制度の導入に向けた調査・検討の推進 | 総務課 |
| 3 職員人事給与評価制度改革 | (1) 職員研修制度の充実 | 総務課 |
| | (2) 目標管理制度の導入 | 総務課 |
| | (3) 人事記録・履歴の蓄積と管理 | 総務課 |
| | (4) 職員評価制度の検討 | 総務課 |
| 4 人事配置計画の策定 | (1) 各部署の人数、男女比、年齢構成、職制数等の検討 | 総務課 |
| | (2) 教員人員配置計画の考え方(コアカリキュラム、専任・非常勤)の整理 | 学務課 |
| 5 ガバナンス体制の検証・整備 | (1) 自由に討論するとともに意思決定を伝える場として、学園経営協議会等の検討 | 総務課 |
| | (2) 監事の位置付けを明確化し、チェック機能や透明性を確保 | 総務課 |
| | (3) 学園の経営方針に則した学校運営を担保する仕組の構築 | 総務課 |
| | (4) 職制の見直しの検討 | 総務課 |
| | (5) 学長補佐業務の整理 | 学務課 |
| | (6) 副学長の位置付けを整理・規定 | 学務課 |
| 6 事務局機能・組織体制の整備 | (1) 組織規程の整備により、大学部署の職務分掌(職務内容)の明確化 | 総務課 |
| | (2) ガバナンス・機能面から見た事務組織図の検討 | 総務課 |
| 7 意思決定に関わる組織・委員会等の明確化と点検・整備 | (1) 委員会統廃合へ向けて委員会規程の精査・改正 | 学務課 |
| 8 学生の学修・活動支援を中軸とした事務体制の整備 | (1) 教務1課、共通教育開発室、学習支援室、学生課、医務室、相談室を統べる組織改編 | 教育センター |
| iii 高大一貫教育の整備 | | |
| 1 学内進学人数の目標設定 | (1) 学内進学人数の目標設定 | 学長・校長 |
| 2 獣医進学コースから獣医学類への進学人数の設定 | (1) 獣医進学コースから獣医学類への進学人数の設定 | 学長・校長 |
| iv 学園ブランドの確立 | | |
| 1 学生募集広報体制の整備 | (1) 学内入試アドバイザー制度の確立 | 入試課 |
| | (2) 学園広報室との連携強化(広報活動、HPやSNS運営、見学者対応) | 入試課 |
| | (3) 入試広報に学生、院生、卒業生の活用(入試アドバイザーとの関連) | 入試課 |
| 2 卒業生ネットワークを活用した学園広報の強化 | (1) 入試部入試課との連携強化(広報活動、HPやSNS運営、見学者対応) | 広報室 |
| | (2) 活躍する卒業生を広報に活用 | 広報室 |
| | (3) 効果的な広報媒体の検討と活用 | 広報室 |
| | (4) ロゴマークやタグラインの導入により目指す姿や理念の共通認識を醸成 | 広報室 |

2 2020年の大学の教学目標と取組項目

| | | | |
|-------------------------|---------------------|-----------------------|--|
| 質の高い・特色ある教育課程の実践 | | | |
| 方針 | ・入学者の確保 定員の1.2倍 | ・安定した受験者数の確保 4,000名以上 | |
| | ・明確なポリシーに基づく教育体制の確立 | ・大学満足度の向上 | |

| 教学課題／取組内容 | 具体的取組 | 担当部署 |
|---|--|--------|
| i 入試戦略 安定した受験者数の確保と質の高い学生及びアドミッションポリシーに基づいた学生の受入 | | |
| 1 入試制度改革の推進 (大学入学希望者学力評価テスト (仮称) への対応) | (1) アドミッションポリシーの策定 | 入試課 |
| | (2) 本学独自の入試制度 (学類別) の提案 | 入試課 |
| 2 学生募集広報強化 | (1) 学類毎のターゲット地域や競合大学の設定により、学類別の入試広報の推進 | 入試課 |
| | (2) とわの森三愛高校での大学紹介イベントの開催 | 入試課 |
| | (3) 指定校推薦入学の実績がある高校訪問の実施 | 入試課 |
| | (4) 受験生とのコミュニケーション戦術: 独自相談会、サタセミ、オープンキャンパスなど、本学に興味を持つ受験生に対して直接時間をかけてコミュニケーションを図り、本学への志願につながる取組 | 入試課 |
| | (5) 高校教員とのコミュニケーション戦術: 訪問時のツール (大学ポスター) の充実や農業高校長会議や教員研修会、高校教員イベントへの参加により、本学のPR活動を強化する取組 | 入試課 |
| ii 教育改革 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの明確化とそのポリシーに基づき創意工夫・系統化された教育課程の提供と実践 | | |
| 1 学群・学類・研究科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの明確化 | (1) ガイドラインに基づいたカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定 | 教育センター |
| 2 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づく教育課程の検討・実践 | (1) 改組後の教育課程の課題整理 | 教育センター |
| | (2) カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づく新カリキュラム (2019) の検討 | 教育センター |
| | (3) カリキュラムに合致したコース制の検討 | 教育センター |
| | (4) カリキュラムの体系的性の明示 | 教育センター |
| 3 学群・学類の全学的な相互連携の強化 | (1) 全学的な視点からのカリキュラムに則した教員人事計画の策定 | 教育センター |
| | (2) 入学前教育、基盤教育 (建学原論、キャリア教育、基礎演習) の充実 | 教育センター |
| iii 学生支援 学生の学生生活満足度向上のために必要な支援、サービス、教育環境の改善・充実 | | |
| 1 学生相談体制の組織化 | (1) 新入生の就学支援制度の構築 | 学生課 |
| | (2) 退学希望学生との面談時に質問項目を統一化し、中退に至る傾向の把握・分析 | 学生課 |
| | (3) 学生カルテシステムを導入し、中退者の早期発見・早期支援と学生情報の共有 | 学生課 |
| | (4) 中退予防システムとして、業務マニュアル・年間スケジュールの構築 | 学生課 |
| | (5) 学生ニーズを把握する仕組 (アンケート、対話集会、インタビュー等) の検討・実施 | 学生課 |
| 2 キャンパス環境の整備 | (1) 厚生施設 (学生会館) の検討・提案 (学生の居場所: 一人で休める場所や集まれる場所) | 学生課 |
| | (2) 課外活動施設の更新・改修計画の構築 | 学生課 |
| | (3) 学生インターン・アルバイトの導入 | 学生課 |
| 3 クラブ・サークル活動の支援強化 | (1) 本学独自の特徴ある教育に関連した課外活動団体への支援方法の検討 | 学生課 |
| | (2) 学生発案プロジェクトの実施 | 学生課 |
| | (3) 学生生活支援会理事会等への学生参加 | 学生課 |
| iv キャリア教育 学生の多様な進路、就職先への支援強化と就職満足度の向上 | | |
| 1 希望学生に応じた企業、公務員等への就職支援の強化 | (1) 就職先リスト (カテゴリー別) の構築 | 就職課 |
| | (2) 大学としての就職先ターゲットの設定 | 就職課 |
| | (3) 学生への幅広い就職情報提供の強化 | 就職課 |
| 2 学生自ら適切な進路を見出せるキャリア教育の充実と支援の強化 | (1) キャリア教育の課題抽出と内容充実 | 就職課 |
| | (2) 教員の就職支援を強化するための方策の検討 | 就職課 |
| | (3) キャリア教育担当の専任教員 (実務家教員等) の配置の提案 | 就職課 |
| | (4) アクティブラーニング対応と少人数編成が可能となる教室改修の提案 | 就職課 |
| | (5) インターンシップ参加率向上を目的とした啓発と受入先の開拓 | 就職課 |
| 3 卒業生情報の整備・活用等による支援体制の強化 | (1) 卒業生アンケートの実施と企業に対する調査 | 就職課 |
| | (2) 就職コーディネーター制度の検討・提案 | 就職課 |
| | (3) 卒業生情報のデータベース化 | 就職課 |

| 教学課題／取組内容 | 具体的取組 | 担当部署 |
|--|--|---|
| v 教育・研究支援 教育の質の向上、研究成果の増加を図るための全学的体制の確立 | | |
| 1 教育センターの質的充実 | (1) 意思決定が可能となる委員会制度の検討 | 教育センター |
| | (2) 授業方法の開発研究の継続 | (1) e-learning、Active Learning など新たな教育方法の調査・開発、対応可能な教室の検討 (2) 新たな教育方法の講習会開催、試験的導入の支援 |
| 3 FDの全学的体制整備 | (1) 教員の教育活動・資質向上に寄与する取組の提案 | 学務課 |
| 4 外部研究費獲得に向けた支援機能の強化 | (1) 外部研究費申請にあたっての規程 (学内決裁・審査方法・申請様式) の整備 | 研究支援課 |
| | (2) 外部研究費申請を促進する個人研究費傾斜配分方法の導入 | 研究支援課 |
| | (3) 外部研究費獲得状況の一覧作成と公開 | 研究支援課 |
| | (4) 教員への外部研究費情報の周知方法の検討 | 研究支援課 |
| vi 改組 社会のニーズに応え、各学群・学類・研究科の特色を活かした改組の検討と効果的な大学運営のための組織体制の整備 | | |
| 1 入学定員および学群・学類等構成の適正な配置の継続的検討 | (1) 入学定員および学群・学類等構成の適正な配置の継続的検討 | 戦略本部 |
| 2 社会ニーズに応える学群・学類の新設 | (1) 社会ニーズに応える学群・学類の新設 | 戦略本部 |

3 2020年の高校の教学目標と取組項目

| | | | |
|---|------------------------------------|--------------|-----------------|
| 高大一貫を軸に、生きる力と社会に貢献する力を育て、進化を続ける学校へ | | | |
| 方針 | ・志願者数 1,300名以上 (江別市内500名) | ・入学者数 300名以上 | ・学内大学進学者数 70名以上 |
| | ・進路実現に向けての確実な学習・活動の取り組みによる高い満足度の実現 | | |

| 教学課題／取組内容 | 具体的取組 | 担当部署 |
|---------------------------------|--|-------|
| i 入試広報戦略の確立 | | |
| 1 入学者数獲得に向けた入試広報戦略 | (1) 広報戦略構築と入試スケジュールの可視化 | 高校執行部 |
| 2 2017年度高校改革を成功に導く広報戦略 | (1) コース毎の目標入学者数と募集広報の重点項目の設定 | 高校執行部 |
| ii コースの検証と再編 | | |
| 1 6コース制の検証 | (1) 6コース制 (2010年度改革) の検証・総括 | 高校執行部 |
| 2 コースの再編 | (1) コースの再編と収容定員の変更 | 高校執行部 |
| 3 課外活動支援の方針 | (1) 強化指定クラブと特待生制度の改定 | 高校執行部 |
| | (2) 課外活動施設の充実 (サッカー場整備) | 高校執行部 |
| iii 教育カリキュラムの構築 | | |
| 1 コース別の考え方や学年別カリキュラム編成 | (1) 各コースの教育目標と特色を生み出す教育カリキュラムの構築 | 高校執行部 |
| 2 高大一貫教育カリキュラム | (1) 高大一貫教育の内容充実と内部進学目標の設定 (「大学探究」・「探究基礎」の学校設定教科科目にて実施) | 高校執行部 |
| 3 大学入学希望者学力評価テスト (仮称) への対応 | (1) 大学入学希望者学力評価テスト (仮称) への対応 (進路部での情報収集) | 高校執行部 |
| 4 高等学校基礎学力テスト (仮称) への対応 | (1) 高等学校基礎学力テスト (仮称) への対応 (国語・数学・英語の3教科は標準単位数以上を確保) | 高校執行部 |
| iv 人員配置計画の策定 | | |
| 1 学年別学級数、コース、教育カリキュラムなどに対応した教員数 | (1) 新カリキュラムに対応した教員配置計画 (案) の策定 | 高校執行部 |
| 2 専任、嘱託、非常勤教員 | (1) 教科毎の専任・嘱託構成比の設定 | 高校執行部 |

目標

- 1 強い「知」に裏付けられた専門教育を創り、提供します。
- 2 実学教育を通して、主体的な学修能力を育てます。
- 3 社会人として必要な「力」を養成します。
- 4 ICTを活用した教育の基盤整備を行います。
- 5 地域・文化・世代を超えて多様な人が学び合う教育環境を整備します。

| 課題 | 取組内容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-----------------------|--|--|--|--------|--------|----|----------------------------|---|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 1-1 教育戦略の明示 | 1-1-1 アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーの構築 | 1 教育基本方針とビジョンとの適合性の確認 2 学士力（卒業生の身につける力）の設定 | 教育センター | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 ii - 1 |
| | 1-1-2 学士課程・修士課程・博士課程の位置付けの確立 | 3 学類・コースの再構築 4 大学院改革の基本政策および学士課程教育との接続の構築 | 教育センター | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 ii - 1 |
| | 1-1-3 高校教育改革の推進 | 5 高校コース設定と学校組織の再構築 6 高校コース毎の教育内容の再構築 7 高校通信制課程の生徒確保に向けた募集広報の推進 8 高校組織毎の取組内容・体制の再構築 | 教育センター 教育センター 高校執行部 高校執行部 高校執行部 高校執行部 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 ii - 1, 2, 3 ※2020経営計画；高校教学目標 ii - 1, iv - 1, 2 ※2020経営計画；経営目標 iii - 1, 2, 高校教学目標 ii - 2, iii - 1, 2, 3, 4 ※2020経営計画；高校教学目標 i - 1, 2 ※2020経営計画；経営目標 iii - 1, 2, 高校教学目標 ii - 2, iii - 1 |
| 1-2 教育内容・方法の充実 | 1-2-1 カリキュラム評価と改善、教育コンテンツの開発、ファカルティ・ディベロップメントの推進 | 9 カリキュラム構成・履修者数・シラバスの再構築 10 授業における動画・デジタル教材等の整備 11 教育目的を達成するためのFDの推進 | 教育センター 教育センター 学務課 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 v - 2 ※2020経営計画；大学教学目標 v - 3 |
| | 1-2-2 点検評価と質保証に向けた取組 | 12 入学前教育・基盤教育・専門教育の再構築 13 成績評価基準・進級認定・卒業認定の再構築 14 自己点検評価および認証評価における改善項目の推進 | 教育センター 教育センター 学務課 | | | | | |
| | 1-2-3 基盤教育・キャリア教育の充実 | 15 基盤教育科目の履修者数と教室利用の整理 16 キャリア教育の充実と推進 17 インターンシップモデルの構築と学生への提示 | 教育センター 就職課 就職課 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 ii - 2 ※2020経営計画；大学教学目標 iv - 2 ※2020経営計画；大学教学目標 iv - 2 |
| | 1-2-4 自ら学ぶ力を養成する教育方法の導入 | 18 e-ラーニング・アクティブラーニング等による教育方法の開発 19 多様な学習方法に対応した図書館機能の整備 | 教育センター 図書館 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 v - 2 |
| | 1-2-5 農業者養成・アントレプレナー教育の充実 | 20 実践的教育プログラムの開発 | 教育センター | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 v - 2 |
| | 1-2-6 英語による授業の導入 | 21 導入目的・方法の整備およびモデル授業の開発 | 教育センター | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 v - 2 |
| | 1-3 学生支援の充実 | 1-3-1 障がいを抱えた学生に対する支援 | 22 身体・精神面で障がいを抱えた学生に対する体制の整備 | 教育センター | | | | |
| 1-3-2 課外活動の充実 | | 23 課外活動の活性化 | 学生課 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 iii - 3 |
| 1-3-3 就職支援の充実 | | 24 酪農ジャーナルのクライアント企業を活用した就職支援 | 就職課 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 iv - 1, 3 |
| 1-4 大学院教育の抜本的充実 | 1-4-1 修士・博士課程修了者の社会進出支援 | 25 キャリアサポート・企業等のネットワークづくり・進路開拓の推進 | 就職課 | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 iv - 1, 3 | |
| 1-5 職業人教育・社会人向け教育の推進 | 1-5-1 大学院における職業人教育の構築 | 26 大学院での社会人教育の取組項目の設定 | 教育センター | | | | | |
| 1-6 酪農学園にふさわしい学生生徒の獲得 | 1-6-1 入試広報体制の充実 | 27 アドミッションポリシーの重点項目の整備 28 入試制度の整理・充実（第二期学力試験の廃止） 29 専願層獲得増加に向けた取組 30 高校の入学者確保に向けた取組と体制の整備 | 教育センター 入試課 入試課 高校執行部 | | | | | ※2020経営計画；大学教学目標 ii - 1 ※2020経営計画；経営目標 iv - 1, 大学教学目標 i - 1 ※2020経営計画；経営目標 iv - 1, 大学教学目標 i - 2 ※2020経営計画；高校教学目標 i - 1, 2, ii - 3 |
| | 1-6-2 高大一貫教育の推進 | 31 高大一貫教育の充実に向けた各コース科目内容の開発と展開 | 教育センター | | | | | |

※2020経営計画：23項目

目標

- 1 教育に連結する強い「知」を目指し、研究レベルの維持・向上を図ります。
- 2 農・食・環境・生命が連携し、有機的に組織された研究プロジェクトを推進します。
- 3 地域のニーズを捉え、研究成果を地域に還元できる研究を推進します。
- 4 世界に貢献する特色のある研究を実施します。

| 課題 | 取組内容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------|---------------------|----|--------|----|--------|----|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 2-1 自主的・自発的研究の支援 | 1 研究コーディネート推進セクションの確立 | 研究支援課 | ※2020経営計画：大学教学目標v-4 | | | | | |
| | 2 受託企業との連携窓口の構築 | 研究支援課 | ※2020経営計画：大学教学目標v-4 | | | | | |
| | 3 応募先の拡大とノウハウの構築 | 研究支援課 | ※2020経営計画：大学教学目標v-4 | | | | | |
| | 4 事業規模・研究テーマ・事業期間等ガイドラインの項目設定 | 研究支援課 | ※2020経営計画：大学教学目標v-4 | | | | | |
| 2-1-1 研究推進コーディネート機能に関する支援体制の構築 | 5 研究の点検評価と研究費への反映 | 学務課 | → | | | | | |
| 2-1-2 学園独自のガイドラインによる資金調達 | 6 留学制度・研究時間の確保・研究費補助制度の整備 | 学務課 | → | | | | | |
| 2-1-3 研究の点検・評価機能の構築 | 7 フィールド教育研究センターの機能確立と研究教育活用の施設整備 | フィールド教育研究センター | → | | | | | |
| 2-1-4 若手研究者を育成する支援体制の充実 | 8 大型医療機器等の更新および新規購入 | 附属動物医療センター | → | | | | | |
| 2-2 附属施設の活用による研究・教育体系の確立 | 9 附属動物医療センターの診療体制の充実（355日診療体制） | 附属動物医療センター | → | | | | | |
| | 10 農業環境情報センター・野生動物医学センターの附属施設化 | 学務課 | → | | | | | |
| | 11 地域ニーズを把握した研究目標の設定 | 研究支援課 | → | | | | | |
| 2-3 公正で透明性の高い研究環境の構築 | 12 発注・納品・検収等の不正防止システムの確立 | 管財課 | → | | | | | |
| | 13 規程整備と積極的な啓発活動の推進 | 研究支援課 | → | | | | | |
| 2-4 研究成果の社会還元 | 14 学術研究コレクションの充実 | 図書館 | → | | | | | |
| | 15 教員総覧システムの充実 | 図書館 | → | | | | | |
| 2-5 産学連携研究の変革 | 16 研究支援機能の組織的整備 | 研究支援課 | → | | | | | |
| | 17 連携シーズの把握と活用 | 研究支援課 | → | | | | | |
| | 18 人的交流ニーズの活用と支援機能の整備 | 研究支援課 | → | | | | | |
| | 19 地域の課題・ニーズの把握と連携の推進 | 研究支援課 | → | | | | | |
| | 20 学園と地域のネットワークの構築と推進 | 研究支援課 | → | | | | | |

※2020経営計画：4項目

3 社会連携

目標

- 1 地域や産業のニーズを把握し、実践的フィールドワークによる組織的な教育研究活動を通して地域や産業の活性化に努めます。
- 2 環境保全と共生社会の実現に努めます。
- 3 未来を担う子どもたちへの学習の場を提供します。
- 4 生涯学習や地域交流の場を提供します。

| 課 題 | 取 組 内 容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-----------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 3-1 教育研究と社会連携 | 3-1-1 地域との共同研究や人材交流の推進 | 1 地域交流協定の課題・ニーズの把握と推進 | | | | | | |
| | | 2 学生生徒を交えた地域ボランティアの推進 | | | | | | |
| 3-2 学園シーズの積極的発信 | 3-2-1 情報媒体の活用による国内外への発信力の強化 | 3 研究活動やEXC活動の整理・発信 | | | | | | |
| | | 4 学外からの視察対応メニューの充実 | | | | | | |
| | | 5 公式サイトの整備 | | | | | | |
| 3-2-2 建学の精神の普及 | 6 学園の広報戦略の立案・推進 | 6 広報室 | | | | | | |
| | 7 建学の精神の普及推進 | 7 生涯学習課 (出版) | | | | | | |
| 3-2-3 公開講座やリカレント教育の拡充 | 8 環境憲章の普及推進 | 8 学務課 | | | | | | |
| | 9 公開講座やリカレント教育の推進 | 9 生涯学習課 | | | | | | |
| 3-3 世代を繋ぐ社会連携の推進 | 3-3-1 教育支援プログラムの開発と提供 | 10 出前授業の内容開発と実施 | | | | | | |
| 3-4 学園ネットワークの活用 | 3-4-1 卒業生等のネットワーク化による連携強化 (世代間の知の継承) | 11 同窓会連合会の組織統合 (酪農学園同窓会) | | | | | | |
| | | 12 会則に基づく12地区72支部設置の推進 | | | | | | |
| | | 13 業種別組織 (緑風会等) の組織拡大と連携の強化 | | | | | | |
| | | 14 開業獣医師 (主に卒業生以外) との連携強化 | | | | | | |
| | | 15 EXC・後援会・同窓会等の連携による生涯学習講座の創設 | | | | | | |
| | | 16 高校の協力関係団体との連携強化 | | | | | | |

※2020経営計画：6項目

4 国際化

目標

- 1 世界の各地域で中核となる国際人を育成します。
- 2 途上国・新興国への留学生派遣と受入れに取り組みます。
- 3 国際的交流のネットワーク拠点を整備します。
- 4 国際化に備えた教育システムを整備します。

| 課 題 | 取 組 内 容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 4-1 国際的プレゼンスの向上 | 4-1-1 戦略的国際ネットワーク構築のための長期構想の策定 | 1 長期構想の策定と拠点交流校の設定 | | | | | | |
| | | 2 拠点協定校との推進項目の設定 | | | | | | |
| 4-2 留学生等派遣・受入促進のための環境整備 | 4-2-1 派遣・受入のためのプログラムの開発 | 3 語学・習慣・文化・オリエンテーションの各プログラムの開発 | | | | | | |
| | | 4 協定校との交流目標設定による選定 | | | | | | |
| 4-3 国際化に備えた教育システム等の整備 | 4-3-1 国際基準に向けた教育制度の整備 | 5 科目ナンバリング等の新たな教育整備項目の調査・推進 | | | | | | |
| | | 6 獣医学教育の国際基準に対応する教育制度の整備 | | | | | | |
| 4-4 国際化に対応した環境整備 | 4-4-1 キャンパス整備 | 7 英語でのサイン・バリアフリー・留学生会館等の課題の整理 | | | | | | |
| | | 8 英語での成果公表の義務化の推進 | | | | | | |
| | | 9 学園コンテンツを英文で紹介 | | | | | | |
| 4-4-2 外国語での教育研究成果の発信 | 10 事務職の留学研修 | | | | | | | |
| | 4-4-3 国際化に対応した事務体制の構築 | | | | | | | |

※2020経営計画：1項目

2 アクションプラン2017

5 キャンパス環境

目標

- 1 多様な教育に対応する学修環境と、フィールド教育を始めとする教育研究環境を整備します。
- 2 学園に集う人々が主体的に交流するゆとりある空間を配置し、キャンパスライフの充実を図ります。
- 3 学園に集う人々にとって安全・安心なキャンパス造りを行います。
- 4 緑豊かな農地や緑地を保全し、環境に優しいキャンパスの実現に努めます。

| 課題 | 取組内容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-------------------------------|--------------------------------|---|---------------|----|--------|----|--------|----|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 5-1 教育研究を支える多様な機能を備えたキャンパスの整備 | 5-1-1 実学教育を推進するフィールドの整備 | 1 圃場活動の実態調査と学外フィールドを含めた活用の推進 2 地域交流協定を拡充した実習フィールドの確保 | フィールド教育センター | | | | | |
| | 5-1-2 学生生徒が快適に過ごせる学修・厚生施設の整備 | 3 厚生施設（学生会館等）の整備 4 学生の学修環境の整備と障がい学生に適応した教育施設等の整備 | 学生課 教育センター | | | | | |
| | 5-1-3 教育研究活動のニーズに応じたスペースの集約と配分 | 5 研究室・教室・実験室の規格化・集約による整備 6 A3号館資料室の統合・整理 | 教育センター 図書館 | | | | | |
| 5-2 安全・安心で環境に配慮したキャンパスの実現 | 5-2-1 安全・安心なキャンパスの整備 | 7 セキュリティ対策とユニバーサルデザインに沿った施設整備 | 施設課 | | | | | |
| | 5-2-2 環境に配慮したエコキャンパスの整備 | 8 省エネ設備・太陽光等の再生可能エネルギー利用の推進 | 施設課 | | | | | |
| 5-3 情報システムの整備 | 5-3-1 総合情報システムの整備 | 9 利用しやすい情報システム（UNIPA等）の整備 10 ICカードを使った施設管理の推進 | 教育センター 施設課 | | | | | |
| | 5-3-2 PC教室等の集約 | 11 PC教室とサーバ室の一元管理（低階層）の推進 | 情報システム課 | | | | | |

※2020経営計画：1項目

6 財務

目標

- 1 将来へ向けた投資を恒常的に行うための基盤として、帰属収支差額プラスを確保します。
- 2 健全な財務構造を維持するため、投資は自己資金を中心に行います。
- 3 奨学金制度を整え、必要な財源を確保します。
- 4 学納金収入の他、寄付金・補助金・事業収入等を計画的に確保します。
- 5 業務の効率化による節減と、透明性の高い執行管理により、教育への投資効果を高めます。

| 課題 | 取組内容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-----------------------------|--------------------------------|--|-------------------------|----|--------|----|--------|----|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 6-1 中長期的な多様性と総合性を備えた財務戦略の構築 | 6-1-1 中長期の目標設定と財務ローリングによる評価 | 1 経営戦略に基づく中長期の投資計画・資金計画の策定 2 中期試算および財務評価による分析 3 高校の財務状況改善に向けた取組の推進 | 戦略本部 戦略本部 高校執行部 | | | | | |
| | 6-1-2 選択と集中による事業計画の策定・実施 | 4 現状把握のため懸案項目の明確化 5 事業計画および実施評価の様式の開発 6 中期目標と年度予算の数値分析と整合 | 戦略本部 財務課 戦略本部 | | | | | |
| 6-2 基金の確立 | 6-2-1 教育研究目的型基金制度の構築 | 7 基本金を含めた基金目的の設定および執行ルールの決定 | 財務課 | | | | | |
| | 6-2-2 基金形成に向けた寄附金募集体制の整備と活動の推進 | 8 後援会等との連携の強化 | 財務課 | | | | | |
| 6-3 多様な収入財源の確保 | 6-3-1 補助金制度の活用 | 9 経常費補助金制度を活用するための組織の構築 | 研究支援課 | | | | | |
| | 6-3-2 外部資金獲得支援の充実 | 10 受託研究・研究助成・科学研究費補助金獲得のための支援 11 特許取得支援の充実 12 外部資金獲得に必要な研究シーズの整備 | 研究支援課 研究支援課 研究支援課 | | | | | |
| 6-4 透明性の高い執行管理の整備 | 6-4-1 業務の見直しと節減目標の設定・実施 | 13 動機付けや啓発活動の実施 | 財務課 | | | | | |
| | 6-4-2 情報公開による信頼性の確保 | 14 IR情報の公開内容・方法の検討 | 総務課 | | | | | |

※2020経営計画：7項目

目標

- 1 学園全体の職務権限と責務を明確に設定し、迅速に実行する組織運営を行います。
- 2 学長・校長が強いリーダーシップを発揮できる環境を整えます。
- 3 恒常的に自己点検評価と第三者評価を行い、計画・実行・検証・改善により、常に組織体制を見直します。
- 4 国際的視野を備え、情報化社会に対応するための能力開発を行うとともに、中長期の人事計画を策定します。
- 5 自ら、責任・やりがい・信頼をもって行動できる組織体制を整備します。

| 課題 | 取組内容 | 推進担当 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---|--------------------------|---|--------|----|--------|----|--|
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | |
| 7-1 学園経営の組織機能の強化 | 7-1-1 学園組織の事務体制の一本化 | 1 職務権限に関する規程の整備 2 事務組織の機能と分掌の再構築 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 5, 6 | | | | | |
| | 7-1-2 学長補佐機能の構築 | 3 学長補佐機能の整理および強化 | 戦略本部 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 6 | | | | | |
| | 7-1-3 教育運営組織の統廃合と機能集約による簡素化 | 4 協議項目の整理による委員会の統廃合 5 教育組織の明確化と規程整理 | 学務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 5 | | | | | |
| | 7-1-4 危機管理体制の強化 | 6 教育センターの実質化 7 リスク項目の把握とマネジメント機能の強化 | 学務課 教育センター | ※2020経営計画；経営目標 ii - 7 ※2020経営計画；経営目標 ii - 5, 7 | | | | | |
| 7-2 点検評価に基づく組織運営 | 7-2-1 短期・中長期の目標設定による組織機能の向上 | 8 組織運営の懸案項目の把握と整理 9 教育改善に関する目標設定と実行スケジュールの作成 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 8, 大学教学目標 v - 1 | | | | | |
| | 7-2-2 自己点検評価や第三者評価および学生評価の組織的活用 | 10 各部署の事業毎の Plan・Do・Check・Action サイクルの実施 | 戦略本部 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 6 | | | | | |
| 7-3 教職員の評価・育成 | 7-3-1 教職員の計画的採用と人事制度の開発 | 11 定期的な新卒・中途・嘱託・契約の各種採用制度の整備 | 戦略本部 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 6 | | | | | |
| | | 12 定期的な教員の資格審査（分野・職位）の実施 | 戦略本部 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 6 | | | | | |
| | | 13 役職定年制・降格制度・早期退職制度の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | |
| | | 14 出向制度の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | |
| | | 15 人員計画と人事制度の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | |
| | 7-3-2 自己啓発の機会や能力開発を体系化した研修制度の整備 | 16 職員の能力開発・キャリア形成に向けた研修方法・内容の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3 | | | | | |
| | | 17 人事交流制度の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3 | | | | | |
| | 7-3-3 専門性を備えた職員の育成・確保と活用 | 18 国際業務・情報業務・農事等の専門性を伴う能力開発の検証 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | |
| 19 教育の総合相談・キャリア教育相談が可能な人材の確保・配置 | | 教育センター | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | | |
| 7-3-4 教職員評価制度の開発・実施 | 20 目標管理等の評価制度の整備 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | | |
| | 21 人事異動および昇給・昇格等の評価制度の構築 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 3, 4 | | | | | | |
| 7-4 職場環境の整備 | 7-4-1 ハラスメント防止対策の構築 | 22 ハラスメント防止の啓発活動の実施 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 1, 2, 3 | | | | | |
| | | 23 公益通報・相談窓口の整備 | 内部監査室 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 1, 2, 3 | | | | | |
| | 7-4-2 常任理事と教職員間の意思疎通の推進 | 24 常任理事から教職員へ講話の機会の確保 | 総務課 | ※2020経営計画；経営目標 ii - 1, 2, 3 | | | | | |

※2020経営計画：17項目